

TDB 圏域別景気 DI (2021 年 1 月)

12 月から 6 割超の圏域で景況感が悪化 ～ 地方部の圏域を中心に人手不足の割合は高水準 ～

データソリューション企画部

池田 直紀

TDB 景気動向調査 (2021 年 1 月) の景気 DI は、前月比 1.1 ポイント減の 33.9 となり 2 カ月連続で悪化となった。新型コロナウイルス感染症による医療体制のひっ迫により 11 都府県で再び緊急事態宣言が発出、外出自粛や飲食店を中心とした営業時間の短縮要請などが実施されたことで、再び下押し圧力が強まった。本レポートでは、全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割し、特に景気 DI が高い圏域や圏域別の人手不足の動向について捉えた。

1. 前月比悪化の圏域が 6 割超、「高知東部」など一部圏域で良化がみられる

TDB 景気動向調査 (2021 年 1 月) の景気 DI は前月比 1.1 ポイント減の 33.9 となり、2 カ月連続で悪化となった。圏域別にみると前月から 130 圏域のうち 41 圏域で改善 (2020 年 12 月 56 圏域)、87 圏域が悪化 (同 72 圏域) となり、6 割超の圏域で悪化となった。

また、景気 DI を 10 ポイント区切りでみると、50 台以上は 1 圏域 (同 1 圏域)、40 台は 11 圏域 (同 13 圏域)、30 台は 105 圏域 (同 110 圏域)、20 台は 12 圏域 (同 6 圏域)、10 台は 1 圏域 (同 0 圏域) となった。景気 DI が 20 台以下の圏域が前月より倍増し、全体の景況感を下押しした。

圏域別の順位は、高知県南国市などの「高知東部」が 50.0 で最高。『建設』が好調なほか、『製造』や『卸売』の持ち直しが上振れ要因となった。企業からは、「後ろ向きな話題だけでなく、設備投資をしたといった話も聞く」(出版・印刷、高知東部) や「県内の高速道路の延長工事があり、関連して出荷が増えている」(建築材料卸売、高知東部) といった声が聞かれた。

以下、熊本県八代市などの「県南・天草」(45.2)、徳島県阿南市などの「徳島南部」(43.3)、佐賀県唐津市などの「佐賀北部」(42.4)、奈良県橿原市などの「奈良中和」(41.9) が 40 台で上位にあがった (表 1)。

他方、愛媛県宇和島市などの「南予」では 19.4 と唯一 20 を下回り最低水準となった。企業からも、「緊急事態宣言発出の影響と全国的な感染拡大により旅行需要は皆無。また地域の飲食需要もなく、消費者のマインドは冷え切っている」(旅館・ホテル、南予) というように厳しい声があがっている。

2. 正社員の人手不足の割合、地方の圏域を中心に高水準

¹ 企業が実感する地域の景況感により近づけるため、地域の経済的なつながりや交通網などを考慮し全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割して、圏域別景気 DI を算出

次に、現在の正社員の過不足状況を尋ねたところ（「該当なし／無回答」を除く）、不足している企業の割合が全体で35.9%²となった。正社員の人手不足割合を圏域別にみると、埼玉県秩父市などの「秩父」が71.4%で最も高い。次いで「徳島南部」（60.0%）が6割台で続き、沖縄県沖縄市などの「沖縄中部・北部」（58.1%）、秋田県能代市などの「秋田県北」、大分県別府市などの「大分東部・北部」（ともに56.3%）が上位にあがった（表2）。上位の圏域は、各県の中心部からやや離れており、そもそも働き手が少なく、平時から人材の確保が困難となっている。また、「県南・天草」（景気DI2位、不足割合10位）や「徳島南部」（同3位、同2位）、「秩父」（同6位、同1位）では、景況感が良化しつつ、人手が不足している。

企業からは、「地方は求人募集に応募者がごく少ない」（各種商品小売、大分中部・南部・西部）や「若年人材が不足している」（建設、東讃地域）、「職人の高齢化と人材不足で現場作業に支障が出る模様」（建設、オホーツク）といった意見が聞かれた。

表1 2021年1月の圏域別景気DI（上位10圏域）

2021年1月調査 - 上位10圏域 -				
順位	都道府県	圏域	主な都市	景気DI
1	高知県	高知東部	南国市・室戸市	50.0
2	熊本県	県南・天草	八代市・天草市	45.2
3	徳島県	徳島南部	阿南市	43.3
4	佐賀県	佐賀北部	唐津市・伊万里市	42.4
5	奈良県	奈良中和	橿原市・香芝市	41.9
6	群馬県	吾妻・利根沼田	沼田市	41.7
6	埼玉県	秩父	秩父市	41.7
6	広島県	備北	三次市・庄原市	41.7
9	茨城県	茨城南部	土浦市・つくば市	40.8
10	岐阜県	中濃・飛騨	可児市・高山市	40.1

表2 2021年1月の正社員の人手不足割合（上位10圏域）

2021年1月調査 正社員の人手不足割合 - 上位10圏域 -				
順位	都道府県	圏域	主な都市	不足割合 (%)
1	埼玉県	秩父	秩父市	71.4
2	徳島県	徳島南部	阿南市	60.0
3	沖縄県	沖縄中部・北部	沖縄市・うるま市	58.1
4	秋田県	秋田県北	能代市・大館市	56.3
4	大分県	大分東部・北部	別府市・中津市	56.3
6	青森県	下北・三八上北	八戸市・十和田市	55.3
7	岩手県	岩手県南	花巻市・一関市	53.8
8	北海道	釧路・根室	釧路市・根室市	53.7
9	北海道	十勝	帯広市	53.3
10	熊本県	県南・天草	八代市・天草市	52.4

※不足割合は、雇用過不足の選択肢のうち「非常に不足」「不足」「やや不足」の合計

² 帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査（2021年1月）」

まとめ

本レポートでは、2021年1月のTDB景気動向調査を用いて、全国を130圏域に分割して圏域別の景気DIと正社員の人手不足割合を算出し、特徴を捉えた。

2021年1月の圏域別の景気DIは、6割超の圏域で前月比悪化となった。特に、20台以下の圏域が増加し、「南予」では19.4を記録した。他方、『建設』ほか幅広い業界で好調となった「高知東部」では50.0となるなど、一部圏域では景況感の良化がみられた。

また、人手不足の割合は、景況感が悪化しつつあるなかであるが、地方の圏域を中心にその割合は高く、各地域で人材確保に苦戦がみられている。一方、「秩父」など一部圏域では、人手が不足しているなか、景況感が良化しているため、今後近隣で人手が過剰となっている圏域から人材が流れる可能性も考えられる。

景気の停滞がみられるなか、圏域によっては人手不足が深刻となっている。行政には地域をまたぐ人材確保の活性化に向けた施策が早急に求められよう。

【 問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

池田 直紀

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます（スマートフォン等をお使いの方は QR コードからも可能です）。

<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。